ＹＡコーナー所蔵の本、またはできる限りページ数が少なく、持ち運びしやすい本をご案内しました。ぜひ図書館のＨＰにてメールアドレスをご登録の上、Web予約サービスを使ってみて下さい！

※館内でＱＲコードを読み取る際は音が出ないようにご配慮ください。

「読みたい作品が載っている本が貸出中。でも分厚い全集は借りたくない…」

そんな時は**「青空文庫」**を活用してみるのはいかがでしょうか。

著作権の切れた作品を電子化・無料公開しているサイトで、ご紹介した作品は全てこちらで読むことができます。スマホアプリもあります。

https://www.aozora.gr.jp/

参考資料・サイト

『回想の太宰治』津島美知子（7010636707）

丸善京都本店twitter（https://twitter.com/maruzenkyoto）

近代文学ノスヽメ

８月のＹＡテーマコーナーは**「文豪」**です。近年、近代文学作家が題材になった漫画やゲームが作られているのでそこまで遠い存在ではないと思います。しかし「イケメン化した方にしか興味ない」「話が難しそう」といったような理由で作品を読んでいない人も多いのではないでしょうか。

このペーパーでは、中高生でも手軽に読めそうな短・中編を中心に教科書に載っていないもの、及びＹＡ担当職員が学生時代に出会い**「えっ面白」**と衝撃を受けた作品などをご紹介します。皆さんの読書の幅を広げるのにお役に立てたら幸いです。

『夢十夜』夏目漱石

「こんな夢を見た。」で始まる不思議な10の夢の記録。各話で主人公や時代設定も異なり、内容もファンタジー、風刺、怪談など様々。一つのお話が短いので、**朝読で夏目漱石を読みたい**方におすすめです。

『よだかの星』宮沢賢治

よだかは容姿が醜く、そのため仲間の鳥たちから嫌われています。「誰にも嫌われず、誰かを傷つけることのない場所へ行きたい」と願うよだかの心情が**辛い**。その自己犠牲的なほど優しい精神は『銀河鉄道の夜』の中でも描かれています。

『たけくらべ』樋口一葉

美登利(みどり)と信如(のぶゆき/しんにょ)の二人を中心とした、吉原で暮らす子どもたちの物語。恋未満の奥ゆかしくもモダモダしたやりとりが**少女漫画かと思った。**擬古文で書かれており日本語の美しさを体感できますが、残念ながら現代人には読み難い。初めて読む方は現代語訳版をどうぞ。

『檸檬(れもん)』梶井基次郎

「得体の知れない不吉な塊」を抱えて京都の街を歩いていた青年は、ふと興味を引かれ檸檬を買う。作者の厳つい顔に反して**ハイカラ**な雰囲気漂う短編。青年に倣って丸善京都本店にレモンを置いていくファンが、現在もいるとかいないとか。

『女生徒』太宰治

とある少女の一日を描いた日記調の物語。女学生言葉や「最近の若い者は〜」に対する疑問、老いへの嫌悪感など、およそ成人男性（太宰治当時30歳）が書いたとは思えないほど**思春期の女子感が半端ない。**…実は、ファンの女性から送られてきた日記をもとに書かれているそうです。

『駈込(かけこ)み訴え』太宰治

番所に自分の主を通報しにやって来たある男の語り。「好き→でも憎い→でも好き」と感情の堂々巡りが滅茶苦茶**怖い**。口述筆記（語った言葉をその場で文字に書き起こす方法）で書かれ、しかもその語りには一言の淀みも言い直しもなかった、というエピソードが物語に凄みを加えています。

『蜜柑(みかん)』芥川龍之介

退屈な日々を過ごしていた「私」が、汽車の中で体験したとある出来事。ＹＡで所蔵しているシリーズ「乙女の本棚」の中で、一番物語と挿絵がマッチしている作品だと思います（個人の感想です）。色調を抑えた背景と蜜柑の鮮やかさが美しい！短い文章の中で**ほっこり**した気持ちにさせてくれます。

『悟浄歎異(ごじょうたんに)』中島敦

『西遊記』の登場人物・沙悟浄が旅の仲間たちについて考える一場面。未完の作品ですが、ここだけでも各人物の性格や信頼関係が伝わってきます。ＹＡコーナー内にはこの物語が収録された資料はありません。が、**中島敦は『山月記』だけじゃない**ことをどうしても伝えたかったのでご紹介しました。